事例No.	83
公表年度	H28
団体の属性	都道府県
団体名	福井県

事例区分	第三セクター

タグ	・社団法人・財団法人 ・組織改革 ・公共施設活用

事例種類	整理・再生等の抜本的改革を行った事例（統合）

事例内容・タイトル

統合による産業振興施設の運営の効率化

出典

第三セクター改革等先進事例集

事例名	統合による産業振興施設の運営の効率化
団体名	福井県
法人名	(一財)福井県産業会館

＜地方公共団体のデータ＞※

人口(人)	799,160
標準財政規模(百万円)	260,729
財政力指数	0.37820

※ 人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 28 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 27 年度決算の数値

＜法人データ＞

[出資等の状況](平成 28 年 3 月 31 日時点)

福井県	30(45.4%)
7市町村	17(25.8%)
業界団体	19(28.8%)
役職員数(人)	23

[経営状況](平成 27 年度決算)

(単位:百万円)

経常収益	353
経常損益	41
当期純損益	41

資産	844
負債	90
純資産	754

[法人概要](設立目的、業務概要等)

昭和 55 年 1 月 28 日、福井県産業会館の管理運営および見本市、展示会等の誘致を行うことにより、福井県の産業の振興および発展に寄与することを目的とし、県内産業界と行政(福井県、鯖江市、越前市等)が一体となって設立。

平成 18 年 4 月 1 日、福井県産業会館を管理運営していた(財)福井県産業会館に(財)サンドーム福井が統合。(財)福井県産業会館は、福井県産業振興施設(サンドーム福井)の指定管理者となる。平成 25 年 4 月には、(一財)福井県産業会館へ移行。



1. 本事例の概要(取組の内容、ポイント)

本事例は、(一財)福井県産業会館(旧(財)福井県産業会館)が(財)サンドーム福井と統合を行い、経営状況が思わしくなかった福井県産業振興施設(サンドーム福井)の指定管理者となり、福井県産業会館と福井県産業振興施設(サンドーム福井)の両施設を効率的に運営することで、利用率と収支を向上させ、資産を拡大させた事例である。

２．取組みの背景、理由、着手のきっかけ

指定管理制度導入以前の福井県産業振興施設（サンドーム福井）の利用率および事業収入は低迷しており、県から赤字補てんとしての補助金収入で採算をとっていたが、法人の安定運営のためにも利用率の向上と収益改善が課題となっていた。

＜経営状況の推移（福井県産業振興施設）＞　（単位：百万円）

	H13	H14	H15	H16	H17
事業収入	92	99	71	90	92
経常損益	0	0	0	0	0
正味財産	67	67	53	53	56
利用率	43.6%	49.2%	36.0%	46.6%	40.6%

３．取組の具体的内容

(1)取組方針とその決定過程

昭和 55 年の設立以来、福井県産業会館の管理運営において概ね稼働率 70%以上を確保し、着実な黒字運営を続けていた。この長年培ってきた福井県産業会館の管理運営実績とノウハウを活かし、両施設一体となった効率性の高い経営を目標とした。

両施設の職員が一体となった営業体制とし、それぞれ施設が持つ特性や機能を活かした多様な利用形態を提案することで、利用者ニーズと選択肢に応えた営業活動を継続的に実施した。

(2)取組の具体的な進め方

営業活動の強化を図るため、法人組織内に営業責任者である営業専任職員を配置。

施設側が待ちの姿勢ではなく攻めの姿勢で積極的に誘致していく体制（法人の全職員が営業スタッフ）とした。

両施設一体となった営業体制とし、利用者情報の共有、類似施設の利用情報収集、各業種の景況動向を探りながら利用が見込める者に対する積極的な働きかけを行った。

特に利用率、収入面で大きなウェイトを占めるコンサートのプロモーターやメディアとの連携に重点を置いた営業を実施し、事業収入と利用率確保に努めた。

広報活動については、利用者サービスの一環としてイベント情報誌を2カ月に1回発行し、県内の集客施設や公共施設に配付しているほか、メールマガジンの配信を週1回行い、タイムリーな情報提供を実施した。

利用者・来場者アンケートを実施し、その声を反映した改善策を示し、問題解決と施設の利便性向上を図った。

スマートフォン専用ホームページを開設し、アクセスマップ、周辺施設情報を提供しているほか、コンサート開催時の駐車場状況を随時更新し閲覧者の利便性の向上を図った。

1年に1回の有識者で構成された指定管理者外部評価委員会にて、管理運営業務の実施状況について専門的見地より評価、意見を伺い改善につなげた。

4．取組の効果

福井県産業振興施設（サンドーム福井）については、（一財）福井県産業会館が運営する前と、平成 7 年度の開館から平成 17 年度までと、財団統合後の平成 18 年度から平成 27 年度までの平均を比較すると、利用率および事業収入とも大きく伸びており、その結果、平成 18 年度以降、法人全体の資産も拡大してきている。資産は法人の安定的な活動のため将来的な施設の修繕などのために使途目的別に積み立てられている。

＜サンドーム福井利用実績＞

	利用率	事業収入
平成 7～17 年度平均	44.3%	104 百万円
平成 18～27 年度平均	49.6%	123 百千円

＜経営状況の推移（福井県産業振興施設）＞ （単位：百万円）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
事業収入	101	112	130	86	86	132	155	101	151	169
経常損益	12	▲5	3	2	0	33	34	2	18	28
利用率	37.9%	45.5%	50.1%	41.8%	47.9%	51.4%	60.4%	48.7%	56.7%	55.7%

＜正味財産の推移（法人全体）＞ （単位：百万円）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
正味財産	469	505	558	569	580	608	658	679	713	754

5．今後の課題（今後の方針、残された課題等）

資産（正味財産）については、当法人が今後も安定した経営を継続するためのものであるが、事業活動の本来の目的は、県内の産業振興であることを常に念頭におかなければならない。また、建物の老朽化もみられるため、どのように維持修繕していくかも課題である。今後は、資産を拡大させるだけでなく、拡大させた資産を修繕等に有効に再投資していく必要がある。

6．他団体の参考となり得る点（苦労した点、工夫した点、上手く進んだ理由、反省すべき点等）

施設の利用率確保には、継続した営業努力が重要であるが、景気動向に左右されやすいのも事実である。施設に求められるニーズや消費動向は時代によって少しずつ変化していくため、施設の改修や法人の組織体制、営業方法などハードとソフトを含めて柔軟に対応し、施設の持つ効用をいかに周知し活かしきれるかが安定運営の肝である。

例えば、福井県産業会館については、広大な屋内・屋外スペースが利用できるため、これを活かせる車両関連イベントに多数利用されている。また、福井県産業振興施設（サンドーム福井）においては、円形の形をしていることからコンサート会場に非常に適しており、コンサートを積極的に誘致することで安定した利用率と収入を確保している。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

担当課	福井県地域産業・技術振興課	連絡先	0776-20-0376